

JIS

言語名コードー第2部：3文字コード

JIS X 0412-2 : 2004

(JSA)

平成20年3月20日付け追補1あり

平成16年3月20日 制定

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

日本工業標準調査会標準部会 基本技術専門委員会 構成表

| | 氏名 | 所属 |
|-------|---------|-----------------|
| (委員長) | 今 井 秀 孝 | 独立行政法人産業技術総合研究所 |
| (委員) | 大 井 みさほ | 東京学芸大学名誉教授 |
| | 尾 島 善 一 | 東京理科大学 |
| | 加 藤 久 明 | 日本デザイン学会 |
| | 小 林 経 明 | 社団法人日本鉄鋼連盟 |
| | 小松原 仁 | 財団法人日本色彩研究所 |
| | 近 藤 良太郎 | 社団法人日本電機工業会 |
| | 橋 秀 樹 | 東京大学 |
| | 田 森 行 男 | 財団法人日本品質保証機構 |
| | 徳 岡 直 静 | 慶應義塾大学 |
| | 八 田 勲 | 財団法人日本規格協会 |
| | 藤 咲 浩 二 | 社団法人日本産業機械工業会 |

主 務 大 臣：経済産業大臣 制定：平成 16.3.20

官 報 公 示：平成 16.3.22

原 案 作 成 者：財団法人日本規格協会

(〒107-8440 東京都港区赤坂 4 丁目 1-24 TEL 03-5770-1573)

審 議 部 会：日本工業標準調査会 標準部会 (部会長 二瓶 好正)

審議専門委員会：基本技術専門委員会 (委員長 今井 秀孝)

この規格についての意見又は質問は、上記原案作成者又は経済産業省産業技術環境局 標準課産業基盤標準化推進室 (〒100-8901 東京都千代田区霞が関 1 丁目 3-1) にご連絡ください。

なお、日本工業規格は、工業標準化法第 15 条の規定によって、少なくとも 5 年を経過する日までに日本工業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

まえがき

この規格は、工業標準化法第 12 条第 1 項の規定に基づき、財団法人日本規格協会(JSA)から、工業標準原案を具して日本工業規格を制定すべきとの申出があり、日本工業標準調査会の審議を経て、経済産業大臣が制定した日本工業規格である。

制定に当たっては、日本工業規格と国際規格との対比、国際規格に一致した日本工業規格の作成及び日本工業規格を基礎にした国際規格原案の提案を容易にするために、**ISO 639-2 : 1998, Code for the representation of names of languages—Part 2 : Alpha-3 code** を基礎として用いた。

この規格の一部が、技術的性質をもつ特許権、出願公開後の特許出願、実用新案権、又は出願公開後の実用新案登録出願に抵触する可能性があることに注意を喚起する。経済産業大臣及び日本工業標準調査会は、このような技術的性質をもつ特許権、出願公開後の特許出願、実用新案権、又は出願公開後の実用新案登録出願にかかわる確認について、責任はもたない。

JIS X 0412-2 : 2004 には、次に示す附属書がある。

附属書 A (参考) **ISO 639** 登録機関及び登録機関諮問委員会

附属書 1 (参考) **JIS** と対応する国際規格との対比表

JIS X 0412-2 の規格群には、次に示す部編成がある。

JIS X 0412-1 第 1 部 : 2 文字コード

JIS X 0412-2 第 2 部 : 3 文字コード

目 次

| | ページ |
|---|-----|
| 序文..... | 1 |
| 1. 適用範囲..... | 1 |
| 2. 引用規格..... | 1 |
| 3. 定義..... | 2 |
| 3.1 コード(code)..... | 2 |
| 3.2 コード要素(code element)..... | 2 |
| 3.3 言語識別子(language identifier)..... | 2 |
| 3.4 集合的言語識別子(collective language identifier)..... | 2 |
| 4. 言語識別子..... | 2 |
| 4.1 言語識別子の形態..... | 2 |
| 4.2 新言語識別子の登録..... | 3 |
| 4.3 言語識別子の使用..... | 3 |
| 4.4 国名コードとの併用..... | 3 |
| 5. 言語識別子一覧表..... | 3 |
| 附属書 A (参考) ISO 639 登録機関及び登録機関諮問委員会..... | 52 |
| 附属書 1 (参考) JIS と対応する国際規格との対比表..... | 54 |
| 解 説..... | 56 |

言語名コード—第2部：3文字コード

Code for the representation of names of languages—Part 2: Alpha-3 code

序文 この規格は、1998年に第1版として発行された ISO 639-2:1998, Code for the representation of names of languages—Part 2: Alpha-3 code を翻訳し、技術的内容を変更して作成した日本工業規格である。

この規格は3文字の言語名コード2種について規定する。これらのコードは用語学、辞書編集法、ドキュメンテーション（図書館、情報サービス、出版社など）、言語学などの分野で利用するために作成されたものである。コードは固定的なものではなく、必要に応じて追加、修正等を行う。この規格は更に言語名コード要素の作成及び使用に関する指針をも含んでいる。

3文字コードは2文字コードに含まれるすべての言語に加えて、より特定のコード付与を要する特殊な場合のために他の言語又は言語群を収録している。2文字コードに含まれる言語はすべて3文字コードにも含まれており、したがって2文字言語名コードをもつ言語は必ず対応する3文字言語名コードをもつ。

なお、この規格で点線の下線を施してある箇所は、原国際規格を変更している事項である。変更の一覧表をその説明を付けて、**附属書1**（参考）に示す。

1. 適用範囲 この規格は、言語名を示す3個のラテン文字からなる言語識別子を含む言語名コードについて規定する。この3文字コードは、用語学用及び書誌用の2組からなる。この2組は、言語識別子作成上の原則（**4.1** 参照）の差を反映して2種類の言語識別子をもつことになった23言語を除き、同一である。この2組の3文字コードは本来、図書館、情報サービス機関及び出版社における情報交換、特にコンピュータ化されたシステムにおいて言語名を表示するために用いることを意図して作成したものであるが、いづれも言語名をコード化した形態で表すことを必要とするいかなる用途にも用いることができる。ただし、このコードには、コンピュータプログラミング言語など、機械的使用のためにだけ作成された言語は含まれない。

備考 この規格の対応国際規格を、次に示す。

なお、対応の程度を表す記号は、ISO/IEC Guide 21 に基づき、IDT（一致している）、MOD（修正している）、NEQ（同等でない）とする。

ISO 639-2:1998, Code for the representation of names of languages—Part 2: Alpha-3 code (MOD)

2. 引用規格 次に掲げる規格は、この規格に引用されることによって、この規格の規定の一部を構成する。これらの引用規格は、その最新版（追補を含む。）を適用する。

JIS X 0304 国名コード

備考 ISO 3166-1:1997 Codes for the representation of names of countries and their subdivisions—Part 1: Country codes が、この規格と一致している。